

横むき地ぞう

むかしむかし、ひとりのどろぼうが、町でひとかせぎしたあと、ぬすんだものを大きな包みにして背おって歩いていました。

「さあ、このあたりでひと休みじゃ」

と、町はずれの森の木かげで、男は、包みをひらいて、ぬすんだ品ものを調べはじめました。ふと、男があたりを見まわすと、小さなほこらがあり、地ぞうさまが立っておられます。

「地ぞうさまにみんな見られたばい。こりゃあ、大ごとたい」と、男はひざまずいて、

「地ぞうさま、ゆるしてください。こんこと、だれにも言わんと約そくしてください」と、たのみました。

すると、地ぞうさまは、

「いちどだけは、見のがしてやろう。おまえも人にしやべるなよ」と、顔をクルリと横



に向けてられたのです。男は頭をぺこぺこさげながら立ち去りました。

それから三年後のこと。男が地ぞうさまの前に姿をあらわしますと、地ぞうさまは、顔を横に向けたままの姿で立っておられました。

男はびっくりぎょうてん。地ぞうさまにお詣りに来る人をつかまえて、

「この地ぞうさま、ふしぎなお方ですたい。おたのみしたことは、かならず聞いてくださる——」

「むかしのことたい。あれ、これ……」

と、ある日のできごとを、すっかり話してしまったのです。

それを聞いたお詣りの人は、

「さては、三年ほどむかし、うちのだいじな着ものや道具をぬすんだヤツは、きさまだったのか……」

と、男を奉行所につき出しました。

地ぞうさまは、すっかりお見とおしだったのです。

それからは「横向き地ぞう」と呼ばれ、土地の人びとから尊信されたということです。